

石川県七尾美術館だより

平成26年1月1日発行
編集・発行 石川県七尾美術館

第76号 (冬号)



ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM

いのりの美術
～人びとが願いを込めた造形～

「印鑰明神垂迹図」

室町時代 (14～15世紀)

七尾市・印鑰神社蔵



展覧会紹介

平成26年1月4日(土) ~

3月30日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

いのりの美術

人びとが願いを込めた造形

12月21日(土)〔開催中〕~平成26年2月16日(日)

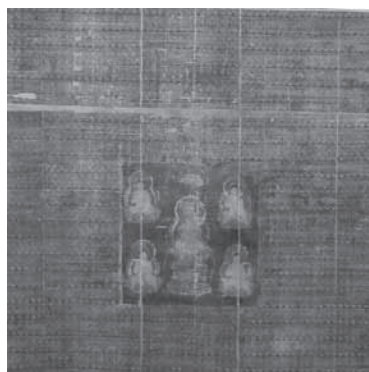
第2展示室

国内各地には無数の神社仏閣が存在しています。祈願や供養、年中行事や祭事などで、誰でも一度はお参りをしたことがあるでしょう。それは今も昔も変わらず、人びとは悲しい時や苦しい時、嬉しい時やめでたい時など、人生の節目ごとに神仏にいのりを捧げてきました。

太古より篤い信仰を受けてきた神仏たち。それぞれ宗派や性格、歴史は千差万別ですが、それだけ日本人にとって欠かせない要素といえます。

従って、宗教が日本の歴史と文化に与えた影響は非常に大きなものでした。特に美術工芸においては、絵画・彫刻・工芸などあらゆる分野での、様式の推移・技法の発達などは、宗教抜きでは語ることができません。

信仰の過程で制作された、膨大な数の美術工芸品。それらは人びとの信心の深さを表すとともに、その地域の歴史や文化を物語る、貴重な文化財でもあります。



「三千仏画像」 七尾市・印鑰神社蔵

また、現代作家たちにとって宗教は重要なテーマであり、今日でも様々な



「総社三番叟図額」(部分)
七尾市・古府町会蔵

切り口で新しい作品が誕生し続けています。

本展では、当館所蔵品および寄託品より、地域に古くより伝来する仏画や現代作家が制作した仏像など、古今の様々な「いのり」に関する作品を、絵画と彫刻を通して紹介しています。

近年何かと話題の、能登七尾出身で桃山時代に活躍した絵師・長谷川等伯(1539~1610)。彼も若い頃は、能登で仏画を描いていました。今回は、等伯やその一門「長谷川派」絵師の仏画もあわせて5点展示中ですので、関心のある方はお見逃しなく。



「愛宕権現図」
長谷川信春(等伯)
当館蔵

同時開催

織部焼 ~それは、時代をうつしたやきもの~

第1展示室

桃山時代。織田信長・豊臣秀吉・徳川家康という3著名人が活躍した時代だということは、皆さ

んご存知でしょう。桃山時代は、日本の歴史の中では一瞬といえる僅か60年ほどの期間ですが、先の3人をはじめとした武将たちなどによって、近世への扉が押し開かれた革新的な時代でした。

それは文化面にも大きく影響し、武将好みの絢爛豪華で力強い美術工芸が流行。工芸においては斬新なやきものが各地で制作されましたが、その中でも特筆されるのが織部焼です。

織部焼は当時の大茶人・古田織部(1544~1615)の名を冠したといわれる美濃国(岐阜県)で制作されたやきもの。「ヘウケモノ」と呼ばれる、歪んだ形状に代表される自由奔放な造形は、桃山時代の自由闊達な風を、現在に余すところなく伝えていけるといえるでしょう。

七尾市出身の実業家・池田文夫氏(1907~87)が蒐集した当館所蔵品の中核「池田コレクション」には、織部焼をはじめとした美濃のやきものが多く含まれています。

本展では同コレクションより、桃山文化を象徴するやきものである織部焼を中心に一部関連のやきものもあわせて展示、その多彩な意匠を紹介しています。



「織部木瓜形鉢」
当館蔵(池田コレクション)



「織部梅画角台付向附」
当館蔵(池田コレクション)

共通観覧料

	一般	個人	団体
大高生	350円	280円	220円
※中学生以下無料・団体は20名以上です。	280円		

みちはつづく

新収蔵品展

3月1日(土)～4月6日(日)

◆第1展示室

みちはつづく

大地は、人や動物が往来を繰り返すうちに踏み固められ、その痕跡として道ができます。やがて道は、人間の手によって石やレンガ、アスファルトなどで舗装されるようになりました。

私たちは毎日、様々な「みち」を行います。なぜ「みち」を行くのか。それは「みち」の先に、それぞれの目指すものがあるからでしょう。我が家であったり、仕事場であったり、ホッとする場所であったり。時には未来でもあったり。

「みち」の途中で多くの人々が出会い、すれ違い、そして立ちどまる。その瞬間に、いつもの風景がさつきまでとは全く異なって見えてくる…そんなこともあるでしょう。

「みち」は日々変化しますが、作品の中では、その姿を留めています。

本展では当館が所蔵する約20点の絵画作品より、自然の中に、街角に、心の中にある「みち」を紹介予定です。



「市場」 村田省蔵



「帰らない日」 加戸ひとみ

◆第2展示室

新収蔵品展

平成7年に356点の収蔵品でスタートした当館ですが、以降、毎年継続して新しい作品を収蔵し、その点数、質ともに充実してまいりました。平成26年1月1日現在では、開館当時のおおよそ倍にあたる、677点を収蔵しています。その多くは、所蔵者の皆様や作家ご自身からのご寄附によるものです。



「島影」 曲子明良

平成23・24・25年度の3年間にわたり、新たに収蔵された作品は購入1点、寄附56点の計57点。本展ではその中から、未公開作品を中心に日本画・洋画・工芸・書の約30点を紹介予定です。

【展示作家】

- 日本画 曲子光男・百々俊雅・曲子明良・中町力
- 洋画 寺戸恒晴・村田省蔵・中村静男・田井淳
- 工芸 榎本友康
- 書 木谷信熾・山岸一男
- 書 高木聖鶴



「招く日」 百々俊雅

※第3展示室の1室では、「池田コレクション」を展示します。

◆観覧料

	個人	団体
一般	350円	280円
大高生	280円	220円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

お知らせ

2013年の年間スケジュール「展覧会のご案内」では、本展の開催期間を4月20日までと記載してありますが、都合により4月6日までとなりました。

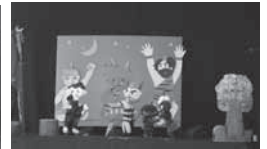
ボローニャ展報告

七尾市立徳田保育園児の元気な太鼓演奏で幕を開けた2013年のボローニャ展は、多くの方にご来場いただき、11月8日(金)から12月15日(日)までの会期を無事終えることができました。関連イベントも盛りだくさんで、絵本の会もこもこさんの「かんたん絵本を作ろうよ!」、野間成之さんの「『のまりん』の紙芝居劇場」、NPO法人ぽっかぽかさんの「おはなし劇場」では、皆さんにご協力いただきました。市外や、県外からもご参加いただき、新たにボローニャ展のファンになってくださった方も、多かったのではないのでしょうか。

イラストを仕事としているプロの方から、初めて美術館に訪れる方まで、ボローニャ展のお客様は層の幅が広く、様々な方がいらつしやいます。そんな中、展示室で元氣よく鑑賞する子どもたちを、暖かく見守ってくださったお客様、どうもありがとうございました。



徳田保育園児の太鼓演奏



おはなし劇場
「こぶとりじいさん」



かんたん絵本を作ろう!



「のまりん」の紙芝居劇場

ボランティア研修旅行

当館の監視員はボランティアスタッフを中心に運営しています。そこで毎年、ボランティアさんを対象とした研修旅行を実施しています。今回は10月7日(月)に、ボランティアさん16名と職員3名で金沢へ行ってきました。秘かに設けたテーマは「加賀を知る」。

まず最初は、石川県立美術館にて「俵屋宗達と琳派」展を鑑賞。同館長で当館の館長でもある嶋崎館長の特別解説付きで、じっくりと見学できました。多くの名品を所蔵する県立美術館は展示点数も多く、所蔵品展も見学していたら、あっという間にランチタイムに…。

— ランチ&お買い物タイム・終了 —

食後は眠くなる危険があるので、手を動かしていただこうと、お次は石川県観光物産館にて「加賀八幡起上り」の絵付け体験。5色の人形から1体選び、絵付けするのですが、可愛くなる人形と、到達点が見えなくなる人形が…。



石川県立美術館にて集合写真

「つくる」ことを体験した後は、宗桂会館へ移動し、金工作家の賀田真知子さんに加賀象嵌の解説や制作実演を見せていただき、象嵌の体験にもチャレンジしました。

来年は、どこにいきましょうか?



「加賀八幡起上り」可愛くな～れ!!



前田さんの実演を真剣に見学

参加者大募集!

友の会美術講座 「やさしい篆刻(中級編)」

絵手紙・書画作品にも見られる篆刻作品の魅力は、その味わい深い文字の形にあります。

本講座は、昨年開催し好評だった篆刻講座のステップアップ編で、2日間1講座とし、2本の印を作成します。初回、1日目に『模刻』をして印の見どころを学んだ後、オリジナル印を印稿(印の原稿)デザインから作り、完成させます。

※『模刻』…篆刻作品の名作をまねて彫ること。絵画、書における模写と同じ。

講師は、毎日書道会や石川県美術文化協会などで活躍されている七尾市在住の書家・大場濯川先生です。制作をとおして篆刻への理解を深めませんか?お申込みをお待ちしております!

日時…平成26年2月9日(日)及び16日(日)

両日とも午後1時~午後5時頃

場所…楽屋(アートホール横)

指導…大場濯川先生(書家・石川県書美術連盟会員)

対象…当館友の会会員

※会員同伴者1名まで参加できます。

参加費…①3,000円(道具・材料費等)

②昨年参加の方または篆刻経験者の方

で道具等をお持ちの方は1,000円

※友の会会員以外の方は①②の金額に平成26年度会費1,000円加算となります。

定員…10名(定員に達し次第締切)

持ち物…エプロンまたは汚れても良い上着、軍手、

飲物、鏡(ハガキ大程度・スタンド式)

募集期間…1月4日(土)~31日(金)

※電話にてお申し込みください。

七尾美術館 ☎ 0767 (53) 1500

どうぞお気軽にご参加下さい。

貸館催し物案内

アートホール

お別れ発表会

2月22日(土) 開演 午前9時30分

小丸山保育園の発表会があります。12月の発表会から、さらに成長した子どもたちの姿を見に来てください。可愛い1歳児や、1年生になる年長児のりりしい姿など、楽しい発表会です。

主催 小丸山保育園

連絡先 島崎 ☎0767(53) 3700

小丸山放課後児童クラブ発表会

3月1日(土) 開演 午前9時30分

「あ、七尾城」の詩舞や琴の演奏、手話など1年を通して学んできたことや、自分たちがやりたいたと選んだ演目を発表します。児童クラブならではの一つの取り組みを見て頂きたいと思います。

主催 小丸山放課後児童クラブ

連絡先 原範子 ☎0767(52) 3710

ト部啓子ピアノ教室・達しのぶ音楽教室

ピアノコンサート

3月23日(日) 開演 午後1時30分

日頃の練習成果を発表するピアノコンサートです。ソロ演奏、親子連弾、先生との連弾などに挑戦します。どうぞお気軽にご来場ください。

主催 ト部啓子ピアノ教室門下生・達しのぶ音楽教室門下生

連絡先 達しのぶ ☎0767(62) 3497

全館 予告

輪島塗・角野岩次回顧展

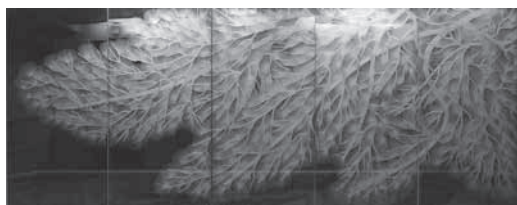
4月11日(金)～20日(日) 会期中無休
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

角野岩次氏(1925～2013)は輪島市出身の漆芸家。20歳で叔父の沈金師・牧野清吉に師事し、24歳時に日展で初入選を果たします。

その後も日展や日本新工芸展、日光会展などで活躍し、昭和57年(1982)の第4回日本新工芸展では「象嵌春の音盤」が内閣総理大臣賞、同60年の第17回日展では「朧なる」が内閣総理大臣賞をそれぞれ受賞しました。

日展評議員や日工会常務理事など要職を歴任し、沈金の応用技法である沈

金象嵌の表現を生涯にわたって追求した氏。同技法の名手として知られ、丁寧な幾重にも彫り重ねられた色漆や金銀粉による重厚さが作品の持ち味となっています。



「寿松」 角野岩次 加賀屋蔵

氏は惜しくも昨年9月に亡くなられましたが、この度そのあゆみを紹介する回顧展を開催します。若年期から晩年期に至る様々な作品約150点を展示し、漆芸に捧げた氏の生涯を紹介予定です。

なお、展覧会の詳細は次号でお知らせいたしますので、ご期待ください。

観覧料 一般500円(400円)

大高生350円(300円)

※中学生以下無料(一)内は20名以上の団体料金

主催 一般社団法人 能登文化観光資源活性化財団

連絡先 ☎0767(62) 1161

会期・料金等展覧会内容に変更の可能性があります。

等伯コーナー

長谷川等伯展特別講演会報告

「等伯と大徳寺」

―障屏画をめぐる―

講師 武田 恒夫氏(美術史家)



かつて室町時代の障壁画を考えた時に、画体という問題にぶつかったことがあり、今日はそのお話もしたいと思います。等伯の画歴は、信春の絵仏師としての能登時代前期、京都へ出てからの後期、それから等伯時代という、大体三つに分けて考えた方が、画体問題を考えた時にも当てはまるような気がします。

信春後期、京都へ来て本法寺などを頼る一方、大徳寺関係の禅僧と豊かな交流をはじめていた。その禅僧らに等伯を紹介する仲立ちになった千利休も、大徳寺の名僧たちも、堺から出ている。堺が明国との最も中心となる貿易港で、盛んに中国の名品が入ってくる。その堺の人々との接触が、やがて等伯が茶の湯の席で中国伝来の、特に漢画や水墨画の名品に触れる機会を得て、一気に漢画に対する意欲が生じ、そして、それへの理解を深め、その理解がやがて制作への意欲を掻き立て、さらに業績として仕上がっていった。これが信春後期の、大きな特色であったのではないかと。

等伯が突然天正17(1589)年に大徳寺の金毛閣、三門の絵を仕上げ、塔頭の三玄院に水墨画36面を描いた、天下に知れ渡った等伯の最初の仕

事と思われがちですが、それまでは、各種の仕事
を甚の需要に応じて描いていたという程度で済ま
されていいのか。京都へ来て、水墨画に目覚めて
意欲を高め、それを制作するという過程を経た。
当然その時期に、彼なりの大きな仕事があったは
ずではないかと、申し上げたいと思います。

その一つが、天正10年に亡くなった信長の菩提
を弔うため、その翌年秀吉が建てた大徳寺塔頭の
総見院です。現在遺っていませんが、等伯が中
之・礼之間・檀那之間に、山水・山水猿猴、芦雁
を描いたという記録があり、これは捨てがたい内
容です。天下人の菩提寺に、狩野派を差し置いて
等伯が描いたことが事実であると、これは話が
かなり変わってくる。信春は京都へ来て、30歳代に
活動を開始している。総見院は45歳頃ですから、
あれだけの天才的な画家が総見院に描いたとい
うのは、決して荒唐無稽なことではない。それが、
やがて等伯の仕事に大きな影響を与えていくの
ではないかという、期待をもたせる段階でのお話
です。

信長も秀吉も茶の湯の熱烈な愛好者で、そうい
う彼らの気持ちを支えていたのが千利休です。狩
野派の記録『本朝画史』には、利休は狩野派をよ
ろしく思わず、狩野派を誇ったとある。だから、
利休が等伯を信長や秀吉に推薦するということ
は、充分有り得たと思います。まだ想像の域で
すが、天正10年頃までには、すでにそういう可能性
があったのではないかと思います。

もう一つ美術史の方から、近江の安土城は信長
の最後の大事な事となりました。天正4年から7年
くらいにかけて、狩野派はその仕事に総力を挙げ
て向かっている。その間、京都では当然狩野派に
代わる存在が必要であった。それがつまり、等伯
です。信長を弔う総見院が出来る段階で、秀吉が
等伯に描かせたことが、有り得たのではないかと
いうことです。

話を戻して、この時期に信春は漢画に興味をも
ち、手掛ける。それとともに、等伯時代に入って

まず志したことは、一歩進んで一派をつくるとい
うこと。これが大切な仕事であって、後の智積院
などは見事な等伯一派の成果となる。等伯は総見
院を描く以前に、仏画や肖像画といった段階から、
新しい手法による漢画に興味を持ち、制作しだ
した。その例を、スライドでお見せしましょう。

これが等伯の漢画です。これ(②岡山県立美術
館蔵、信春筆「達磨図」)は達磨自体のエピソード
を描いたもの、こちら(①龍門寺蔵、信春筆
「達磨図」)は尊像としての達磨です。①は一休の
弟子で画僧でもあった墨溪の描いた達磨像を写し
取ったもので、形は似ていますが、筆法は全然違
う。エピソード上の達磨と、礼拝の達磨像との違
いもあります。それ以上に信春が、漢画という
ものを描きだしたという段階での違いも出てきて
いる。①は水墨画の技法を熟知した、手慣れた筆
さばき。いかにも等伯らしい、シャープな筆使い
です。一見すると、②の方が水墨画を描き始めた
頃の作風と思いますが、落款からしますと②の鼎
形印の方が等伯時代に近い印章である。その通り
になるべく形を写し取るのが模本、模写ですが、
①はその意を自分なりに受け止めるという筆受で
す。この筆受は非常に大切で、雪舟の『山水長巻』
も、一番最後に「筆受」という用語が出てくる。
それと同じく、ほとんど形は同じですが、筆さば
きは違う。それに対して②は、重々しい感じで慎
重に描いている印象を受けます。もちろん、見た
形の上での感想ですが、二つの違いも含めてお話
しました。

次どうぞ。信春時代の「牧馬図」(東京国立博
物館)は、全く変わって大和絵的な図様構成です。
この画面構成、平面的な場を作り、そこに野筋で
連ねていく。これは大和絵においてよく使われる
手法です。その一方で、背のひよる長い喬木が両
端にあって画面の構図を抑える。これはある意味
では漢画的な手法です。大画面を大和絵風にこな
し、しかもその構図の引き締めを大木ではかる。
大和絵の大画面を、すでに信春時代にマスターし

ていたという例です。

次どうぞ。これ(妙覚寺蔵、信春筆「花鳥図」)は、
漢画的な梅の木でまとめた作品に、池はある意味
で大和絵的な風景手法でもあります。この描き
方は等伯になってから大成されます。こういうも
のを信春時代に成功させ、続いて等伯時代に打ち
出した真行草が、実は一派を作る大きな支えにな
るといって、前提になっている訳です。大和絵の手
法を使い、一方では漢画を描く。これが智積院で
の成功の大きな理由になります。等伯時代に等伯
の筆様、等伯様の画体が突然成立したとみるので
はなく、信春時代において画体への構想が、すで
に成立していたということを特に申し上げたかつ
たのです。

次に等伯時代に移って、天正17年に等伯という
名前が一気に躍り出てくる。この年に大徳寺塔頭
の三玄院に、36面にわたる水墨の山水画も描いて
いる(現 楽美術館、圓徳院蔵)。住持の春屋宗園は、
禅院は風流の場ではないと、桐の紋を打ち付けて
絵を拒否した訳です。ところが、訪ねて、たまた
ま和尚が居ないと聞き、急いで帋(紙)に水墨を
乱点したということです。これ(楽美術館蔵「松林
架橋図」)は国宝の「松林図」(東京国立博物館蔵)
に近い。つまり、等伯時代に入った直後に、すで
に彼がこういう草体画を心得ていたという、重要
な史料になる。そして、後で許されて真体の山水
(圓徳院蔵「山水図」の冬景)を描き加えており
ます。つまりこの年には、彼が水墨の真と草とい
うものを心得ていたと考えざるを得ない。とい
うことは、彼がすでに信春時代から水墨画の画体
を、心得ていたということを示している。
その真行草とは一体なんなのか、これがつまり、
当時の狩野派が全盛を誇った理由の一つではない
か。狩野元信が真行草という画体方式を開発した。
正信では真行草というものではなく、中国名家の
筆様を筆受するやり方です。それを元信は、元信
様の真行草というものを打ち立て、例えば玉潤様
は元信様の草体、馬遠様は元信様の真体、牧谿様

は元信様の行体に切りかえる。元信様の三つの画体を作ることにより、新しい狩野派の共同制作に向わせた。何故かといいますと、中世の中期以後、大きな殿堂や書院造りが発展し、いくつかの建物の中にまたいくつもの部屋が成立する。すると、それだけ多くの障屏画の必要がおこってくる。馬遠様、夏珪様とかいうのではやっていけない。つまり元信様の真行草という画体方式を作り、それを多くの門弟たちに教え、元信様の画体で描き分けさせる訳です。これが、狩野派が室町末から近世初期にかけて発展した大きな理由ではないかと思えます。それがやがて色んな派を生み、その最も有力なものが長谷川派であった。等伯は信春時代、すでにそういう画体方式を狩野派から学んでいる。つまり天正17年には、一派を構えるだけの等伯様の真行草というものをもち、一門を作るだけの体制を整えていたということが、想定できる訳であります。

天正18年、内裏の改造にあたり、狩野派が制作を引き受けることになった。その時、等伯が割り込もうとして、狩野派一派が公家の勧修寺晴豊を通じて抑えさせたと史料にある。等伯一派が狩野派と対抗するだけの大きな存在になっていたというところで、信春時代からかなりの実力を持っていたことを示している。この年、秀吉が実母大政所の菩提寺・天瑞寺を造った時に、金碧の濃彩画を狩野永徳が一人で引き受けている。ところがその翌年、秀吉長男の菩提寺祥雲禅寺の障壁画が、等伯一派に任せられると、この段階で長谷川派が完璧に成立していたことを示すことになった。それを証明するのが、有名な現・智積院所蔵の襖絵群です。永徳が天瑞寺を一人で描いたのとは違って、等伯は一門を引き連れて、みんなで描き分けたという例で、全て真体です。「松に秋草」の松の描き方などは実に堂々たるもので、等伯の作品です。「松に立葵」は、幹や葉の描き方に等伯とは違う手さばきが見られます。つまり、信春から名前を変えて僅か2、3年後、すでにこれだけの大きな

仕事を等伯一門の総出演で描いた訳であります。次に、等伯様の画体の代表作についてふれてみます。まずは、禅林寺の「波濤図」です。この岩と波、等伯の真体画はいかに独特であるか。まるで鉈（なた）で岩を割ったような感じで、何れも狩野派とは違う性格のもので、そうかと思えば、それに負けないだけの水の曲線の美しさ。何れにもいえることは、明快であるということです。そして、この絵の特徴は、濃彩以上に匹敵するこの墨の力強さに、金泊を貼った雲を持つてくるといふ、これ等伯の真体画の代表といえます。

次は対照的な「松林図」（東京国立博物館蔵）です。余白を非常に大きくとってある。そして、これは淡墨を引き立たせるための濃墨だといってもいいくらいです。等伯様の草体画の特徴が出ていると思います。草体画というのは、見る人に豊かな想像を与える画体である。つまりこれを見て、この余白の中に、或いはこの松の中に、何を感ずるかは任せると。これが草体画の特徴で、私は墨絵の大和絵という見方です。こういう余白は、深い晩秋の霧であろう。つまり日本画において和様の画面は、非常に季節感を強く求めますが、等伯はそれを墨絵で受け取った。しかもこれが、旧三玄院の襖絵の松が發展し、洗練されたものになる。筆数は少ないでしょうが、これはかなり慎重に描いたんだらうと。それが国宝に指定された、大きな理由であらうと思います。

次、これ（龍泉菴蔵、等伯筆「枯木猿猴図」）が行体です。これは牧谿様の筆受ですが、牧谿の厳しい猿と比べ、全体に曲線を使い、一つ一つのタッチもはるかに柔らかい、優しい、いかにも日本的な猿である。等伯の代表的な行体画と見て、おかしくはないと思います。しかし、その元になるのは、牧谿の猿であったと。

最後に、今回の展示作品を、真行草に分けてスライドでお話しします。

これ（真珠庵蔵、等伯筆「商山四皓図」）は、真体にあたります。力強い直線で人物を描き、松

が「松林図」とは全く違い、それぞれの確に描いている。そして面白いことは、真体の中核的モチーフをはっきりさせるために、草体を所々わずかに入れています。これも等伯画の一つの特徴であらうと思います。

これが聚光院の「四愛図」です。この岩、衣裳、草花、冬の梅、松、みんな明快に描いて、真体画の特徴をよく表しています。直線的に素早く描くこういう描き方は、狩野派をはじめどの派にもない、等伯独特の手法であると思います。

これ（真珠庵蔵、等伯筆「蜆子猪頭図」）には、行体の特徴がよく出ています。2人の人物が主役で、それを支えるかのように、一部、草体にあたる部分があります。何れも、悟りを開いた自由自在な生き方を示した人物画です。それなりに真体で処理しなければいけないけれども、こういう磊落な姿、その人柄にあわせた画体で描いたと考えてもいいと思います。

これ（高桐院蔵、等伯筆「柳に騎驢図」）は、等伯の行体画としては最も傑作の一つ。4人が世を避け、商山で隠棲生活を送ったという逸話によるもので、人物の着衣が真体とはかなり違う。優しい、しかも流れるような線。その線に対して、彼の好みの松を描かずに柳をそえている。柳が、そういう行体には相応しい作品である。

これ（三玄院蔵、等伯筆「牛図」）は草体の牛です。この牛は草体ながら、その一部に真体といってもいい細緻な毛描きを施している。更に重要なことは、何故こういう草体を選んだか。角だけをはつきりと描き、どこに角を向けているかという、水辺や大木に角を立てている。つまり、それを観る者に考えさせる、解釈させる、草体方式による禅機画であらうと思います。

以上、大徳寺出陳画の話をこれで終わりたいと思います。

※本文は平成25年8月18日に行われた特別講演会の内容を、当館の責任においてまとめたものです



これからの展覧会予定

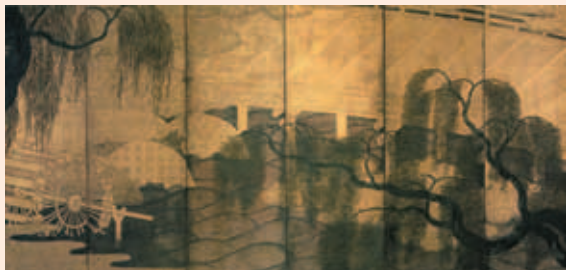


◆第1・2・3展示室 平成26年4月29日(土)～6月1日(日)

長谷川等伯展～その多彩な画業～

長谷川等伯は室町時代に能登国七尾に生まれ、20歳代には仏画を中心に描き、30歳代には上洛して一派を成して大名や大寺院の仕事を手掛けて活躍しました。近年、等伯の評価と人気はさらに高くなってきています。一体その魅力は何か…その理由の1つとして、「多彩な画業」が挙げられるでしょう。等伯は仏画・肖像画・金碧画・水墨画と、何でも描いたし、何でも描けた絵師でした。

シリーズ19回目となる今回は、《天才絵仏師・信春》《巧みなる肖像画》《華麗なる金碧画》《様々な墨の表情》の4つのテーマで、その多彩な画業とそれぞれの魅力を紹介します（一部展示替え有り）。



重要美術品「柳橋水車図屏風」(左隻) 長谷川等伯 神戸市・香雪美術館蔵
※前期(4/26～5/14)展示



「竹虎図屏風」(左隻) 長谷川等伯 東京都・出光美術館蔵
※後期(5/15～6/1)展示

平成26年度 石川県七尾美術館友の会会員募集のご案内

新年度友の会会員を次の要領で募集いたします。現在会員の方で更新をご希望される方は改めてお申込み下さい。お申込みのない場合はそのまま退会となってしまいますのでご注意ください。

- ★入会手続き★
- ①受付開始 3月1日(土)から【年度会費1,000円】
 - ②受付場所 当館受付カウンターまたは郵便受付（郵便振替用紙をご利用ください）

※郵便局備え付けの振替用紙の通信欄に必要事項《会員の区別（更新・新規・元会員）・郵便番号・住所・電話番号・氏名・生年月日》をご記入のうえ、会費を添えてもよりの郵便局窓口へお出し下さい。払込料金120円は申込者負担となります。

郵便振替口座	00710-0-50795
加入者名	石川県七尾美術館 友の会

★友の会に入会すると…こんな特典があります！★

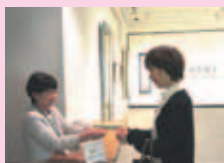
- その1 当館主催展覧会の観覧料が割引になります。
- その2 情報満載「美術館だより」（年度内4回発行）が郵送されます。
- その3 相互割引提携館主催の展覧会観覧料が割引になります。（会員本人のみ）
- その4 特別企画展開会式・内覧会へご招待。（無料）
- その5 販売グッズが割引になります。（一部除く）
- その6 喫茶室利用代金が10%割引になります。



左記のほかにも友の会会員限定の催し、特典がありますのでぜひ更新、ご入会ください♪

ボランティアしてみませんか？

お客様が鑑賞しやすいように目配りしていただき、時には、マナーについての声掛けなどもしていただいています。現在40名の皆さんが楽しく、無理なく活動しておられます。詳しくはお電話で。どうぞお気軽にお問い合わせください。



場所：七尾美術館の展示室内

活動：9時～13時と13時～17時（半日交替）

◆1月～3月の休館日◆

- 1月 1～3, 6, 14, 20, 27
- 2月 3, 10, 12, 17～28
- 3月 3, 10, 17, 24, 31

◆開館時間◆

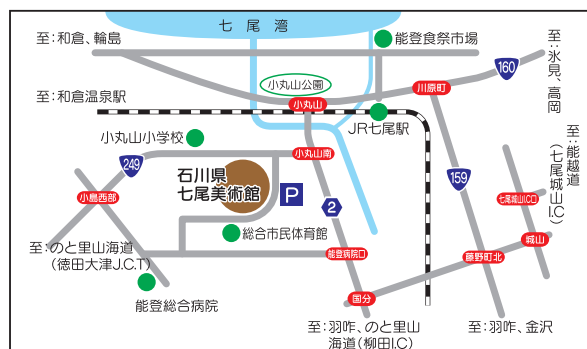
午前9:00～午後5:00
（入館は午後4:30まで）



エントランスホール及びティールームにて、Wi-Fiスポットサービスの「FREE SPOT」をご利用いただけます。



割引、プレゼントなど特典いろいろ！ぜひ当館でもご利用ください。



飛行機……能登空港からのと里山海道利用約45分
 車……金沢からのと里山海道利用約1時間15分
 タクシー……JR七尾駅から約5分
 徒歩……JR七尾駅から約20分
 市内循環バスまりん号

……JR七尾駅前「ミナ・クル」ビル裏バス停から西回り「七尾美術館前」下車
 なおコミュニティバスぐるっと7
 ……JR七尾駅5番乗り場から西コース「小丸山台1丁目」下車

◎次号・第77号（春号）は4月1日発行予定です。